

- 午後からは、ウォーミングアップも兼ねた細かい身のこなしを確認しながらスタートしました。試合で起こりうるシチュエーションをイメージすることで、身のこなしの方法やステップワークの必要性なども感じる時間になりました。
- スペーシングドリルをこなし、自身の動きの先の方向だけを見るのではなく、周りのプレイヤーがどこにいるのか複数の情報を確保して、フロアバランスを見ながら移動しました。視野の確保・トランディション・スペース作りなど考えながら取り組みました。



### 3. 総括

今回の選考合宿では、スタッフから選手達に対して自分のプレーや存在感をアピールすることを強く求められました。どうやったらデフバスケットボールの日本代表に選ばれるのか、日本を代表する選手とはどんな選手なのかなど改めて考えるきっかけにもなりました。その一つ一つに応えるべく、選手達はお互いに話し合っコミュニケーションを取ったり、ライバルとして競い合ったりする一面も出てきました。

また2日目の練習試合では、愛知教員チームの激しいプレッシャーディフェンスに苦戦するも、試合の中で徐々にぶつかり合いにも慣れて行っているように見えました。国際大会では、こういった身体のぶつかり合いは避けては通れないので、とてもいい練習になったと思います。そんな激しいぶつかり合いの中でも、戦術的な動きの指示があったり冷静な判断を求められたり、課題も多くありましたが収穫も多い選考合宿になったと思います。

ご協力をいただいた東海学園大学名古屋キャンパス様、中上さん恩師、また対戦いただいた愛知教員チームの皆様、誠にありがとうございました！